

# 西宮 市政ニュース



Nishinomiya Muni. Bulletin

平成16年(2004年) 1月1日 / 第1196号

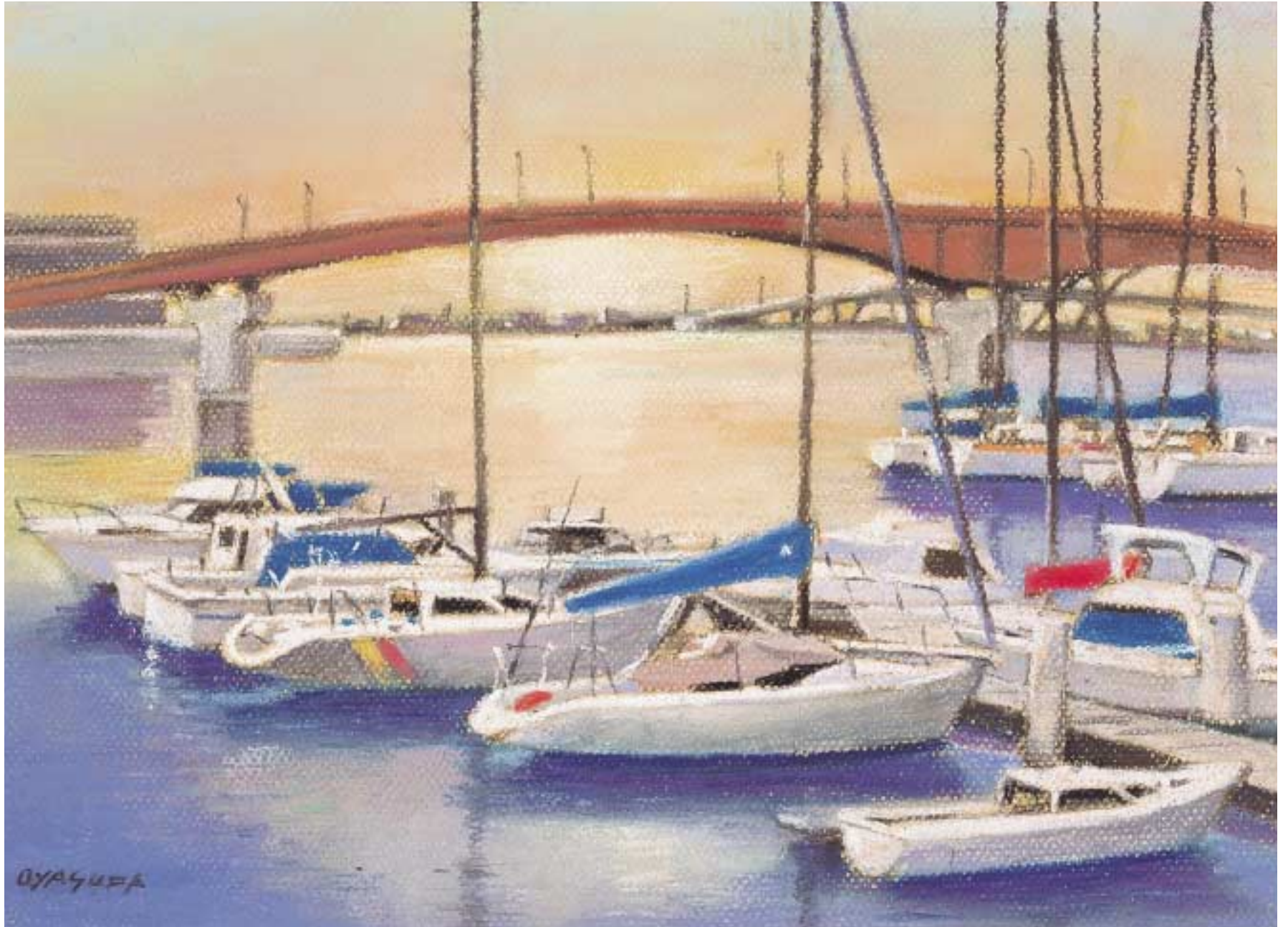
## 今号の主な記事

人にも環境にもやさしい魅力あるまち西宮	4・5面
17日、震災記念碑公園に献花・記帳所を設置	2面
「環境学習都市宣言」特集	8面～11面
新春プレゼントクイズ2004	12面

発行 / 西宮市役所 〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号  
TEL / 0798-35-3151 (代表)

編集 / 総合企画局市長室広報課 TEL / 0798-35-3400

毎月10日(1月は1日)・25日 2回発行



## 西宮港の朝

絵・保田 治(現代パステル協会会員)

青春の海から  
新たな航海へ

保田 治 (海洋冒険家)

僕は、一昨年の5月12日に「太平洋ひとりぼっち」から40周年を記念して、西宮浜からサンフランシスコへ向け出航しました。日付、航路、ヨットのサイズ、出航場所や目的地まで当時をそのまま再現しました。僕の原点に戻る旅でした。

僕の挑戦と冒険の旅は西宮から始まったのです。僕がヨットとかかわりをもったのは高校のヨット部に入部してからです。その練習場が旧の西宮港でした。

当時の西宮港は水もきれいで、たくさん漁師さんがおられ、ジャコを干している隣から、ヨットで海に出ていました。

学校が大阪にあり、平日は海で練習ができないので、週末になれば、西宮に来たものです。

毎年、夏に西波止町の民家に泊めていただき、自炊をしながら、猛練習をしていました。その際、浜風につけて甲子園球場から「ワッツ」と高校野球の観客の歓声が聞こえてきました。ヨットは、ほとんど観客はいませんが、「ああー、自分も青春している」と一体感を強く感じたことを今も思い出します。その合宿でヨットの技術も身につきましたし、多くのものを学びました。

1962年(昭和37年)に日本人として初の単独無寄港太平洋横断に出発しましたが、西宮港以外からの出発は考えられませんでした。

僕が、西宮港のヨットハーバーで、練習を始めたのが1954年(昭和29年)で、今年で50年を迎えます。

その記念すべき節目の年に更なる挑戦の航海に新西宮ヨットハーバーから出発できることをうれしく思います。

一人のヨットマンとして、海を愛し、地球を愛する者としての願いは一つだけです。地球環境保護への僕の思いを、少しでも多くの方に感じていただきたいと思っています。

今年10月には、南米・ホーン岬を東回りで通過する単独無寄港世界一周に挑戦します。今回もリサイクルしたアルミ材で造ったヨットと一緒にですが、原点は、海を愛する、この地球の全てを愛するということです。

西宮市は、昨年12月に全国に先駆けて、「環境学習都市宣言」を行い、新たな西宮のまちづくりの航海に挑戦されました。僕も、西宮の皆さんとともにエンドレス・チャレンジジャーとして歩んでまいります。